

福島原発事故から二年半 － 事実を見極める－

後藤 貞雄

2013年9月11日

<http://realstory67.web.fc2.com/>

- 第1章 概要
- 第2章 リスクマネジメントと危機管理
- 第3章 事故の経過と実態
- 第4章 事故の原因と背景
- 第5章 四つの事故調査委員会

第5章事故調 3つの留意点

1. 聞き取り調査

・バイアス

忘れる、記憶違い、思い込み、(保身、脚色、隠蔽)

・報告書バイアスと専門知識不足

調査員のバイアス、作文、聞いた話、危機管理の素人

2. 目的 : 課題の抽出、今後に生かす

・手段: 事実解明・真相究明(出来ない CF. 犯罪調査)

(目的と手段の混同)

3. 目的 : 原因究明、再発防止

・目的外: 責任追及、批判ではない(判断基準、有害無益)

責任者(犯人)を特定ではない(CF. 刑事裁判)

(目的と手段の混同)

5.1 事故調二つの視点－事故調と報道

GS Institute

真理	再発防止(人は過つ)	
方法	原因究明	責任追及・批判
対象	人間・組織一般	個人・個別組織
再発防止手段 結果	○自制・自律 永続的	規制・更迭(他律) 一時的
調査対象者	事実開示	隠蔽・保身
事故調	政府、(国会・民間)	国会、民間 東電(責任転嫁・釈明)
報道・国民		○
チャレンジャー事故	経営者打上げ強行 ○	
運転員(善意)	○(自律)	Cf. JR西日本(懲罰)
産・官不作為		○(故意:規制)

5.2 原発事故調を読む-まとめ

GS Institute

事故調	政府	国会	民間	東電
位置付	公式調査	国政調査権	任意団体	社内
委員長	畑村洋太郎 工学博士機械	黒川 清 医学博士	北澤宏一 工学博士化学	山崎雅男 副社長
事実調査	聞き取り調査 (事実?) (事実:1・3号水素爆発、TV映像)			
主目的	原因究明 再発防止	責任追及・責任回避主体 (批判・再発防止?)		
再発防止手段	技術と知恵	規制・監視	曖昧	期待できず
原因・評価 (事故以前)	津波・複合・全 体像視点欠如	事業者と官		安全委・土木学 会規定
強調 トピックス	炉の緊急時運 転技術	東電・官僚 意図的不作為	官邸批判 調査員の主観	対応妥当 官邸非難
原因まとめ	津波過小評価、SBO想定不要指針 AMなし、安全神話、事業者・官の意図的不作為、 人			想定外

政府事故調：危機管理の専門家 畑村洋太郎委員長、柳田邦男委員



5.3 リスク管理・危機管理・事故調

GS Institute

リスクマネジメント	福 島 事 故 発 生	危機管理	事故調・次のRM 日本のメディア・国民		事 故
機能せず		事態悪化 阻止	国会・民間・ 東電事故調 官僚・TE メディア 国民	責任追及 批判 ⇒ 責任転嫁 隠蔽	
			最悪事態 回避	政府事故調 競争企業 TG	
原因 半世紀		結果 10日	原因・抑止？ 数年～		
32年間3回の原発事故		想定：起こる(世界の常識)			

終章 不幸中の幸運—かくして未曾有の原発事故の最悪事態は回避された

1. 複合災害

複数原発炉心溶融・核燃料プール事故

2. 最悪事態想定

日本国存亡の危機、世界的放射能汚染

3. 経過想定

格納容器爆発・または使用済燃料火災

⇒二原発放棄⇒国土喪失、首都圏三千万人避難

4. 格納容器高圧損傷(地下部)(2号機ベント失敗)

⇒圧力低下(偶然の爆発回避)

5. 「神のおぼしめし！」(菅首相):不幸中の幸い

「日本にはやはり神様がついていると思った」

6. 期待:事業者・官の劣化⇒自律的、規制による変革

:論理的思考 :危機対応能力

ご清聴ありがとうございました。

後藤貞雄